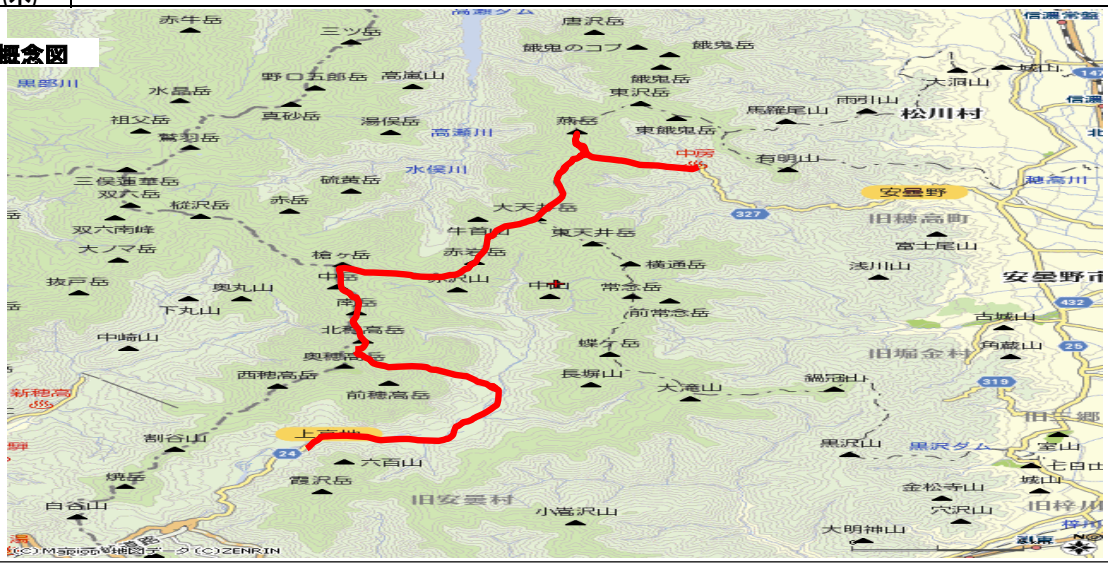
山 行 報 告 書

報告書作成	2009年9月20日

山名 [山域]	表銀座～槍ヶ岳～大キレット	目的と方法	憧れの槍ヶ岳と大キレット
登山期間	2009年9月6日～10日	山行形態	テント泊縦走
参加人数	1名		

9/6 (日)	自宅(930) ==0:10==JR岡崎駅(914) ++++0:28++++名古屋駅(942,1000) ++++2:03++++松本駅(1203,1210) ++++0:24++++穂高駅(1234,1300) ==0:55==中房温泉(1355)
9/7 (月)	中房温泉(600) --2:20--合戦小屋(0820) --0:50-- 燕山荘(0910,0940) --0:20-- 燕岳(1000,1010) --0:20-- 燕山荘(1030,1100) --3:00-- 大天荘(1400)
9/8 (火)	大天荘(0700) --2:00--ヒュッテ西岳(0900,0910) --0:45-- 水俣乗越(0955) --1:30-- ヒュッテ大槍(1125) --0:45-- 槍ヶ岳山荘(1210) --0:20-- 槍ヶ岳(1230,1300) --0:20--槍ヶ岳山荘(1320)
9/9 (水)	槍ヶ岳山荘(450) --0:10-- 槍ヶ岳(500,600)--0:10-- 槍ヶ岳山荘(610,710 --2:00--南岳小屋(910,1000) --1:00--Hピーク(1100) --1:10 北穂小屋(1210,1300)--1:40--涸沢ヒュッテ(1400)
9/10 (木)	涸沢ヒュッテ(820) --1:40-- 横尾山荘(1000) --2:10--上高地(1210) ==松本駅++++ 岡崎駅

概念図



日誌　憧れの槍ヶ岳、「登るのなら是非、表銀座から」と前々から思っていましたが、ついにこの時が来ました。

6日、仕事を終え電車とバスで中房温泉へ向かう。道中とても天気がよく、明日からの山行に期待しすぎてはいけないとおもいつつも、ついワクワクしてしまいました。この日は中房温泉で温泉に入りテント泊。

7日、テントを撤収し、6時に出発、合戦小屋までの樹林帯を登るのにかく汗は、自分の体から悪いものが出ていくようで実に爽快です。予定より早く燕山荘に到着、ザックを山荘にデポし燕岳へ。天気は最高、遠くには立山、剣岳。鹿島槍から白馬岳。360度視界は良好で、富士山まで確認することができました。ここで見えた山の中では僕にとって鹿島槍がとてもかっこよく印象的でした。「今度はあれの登りたい」と思いました。その後、表銀座を南下、槍ヶ岳を常に視界に入れながら歩きました。アップダウンを繰り返し3時間で大天荘に到着。テントを設営し大天井岳へ。槍ヶ岳から前穂高までの稜線は美しくここからの展望はとても素晴らしいものでした。南には常念岳が見えました。夕方、食事を終えると辺りは急にガスってきて何も見えなくなったので、テントに入って寝ました。夜中、ふと目が覚め、辺りが明るいのに気付き外に出ると辺りのガスはすっかりなくなっていました。西の方向をみると、眼下に広がった白い雲海と槍ヶ岳から穂高の稜線を、月の光が幻想的に照らしていました。

8日、安曇野には雲海が広がり、大天井岳山頂からご来光を見ることができました。実はこの時、山頂直下に猿がいるのに気付きました。朝食を済ませテントを撤収し、7時に出発。2時間ほどでヒュッテ西岳に到着。ここで双眼鏡を持って何かを探している人がいました。いかにも山関係の人で猿がどうこうと話していたので聞いてみると、猿がかなり高いところまで来てしまっているので調査をしていると言っていました。僕は大天井岳の猿のことを伝えました。その後、12時ころ槍ヶ岳山荘に到着。ついに憧れの槍ヶ岳へ登頂いたしました。山頂は風がなくいい陽気で、360度広がる展望を眺めていると、やはりここが北アルプスの中心のような気がしました。いつまでも飽きない展望だったのですが、ガスも出てきたので槍ヶ岳を降り、この日仲良くなった名古屋市在住の方と生ビール(千円)で乾杯しました。いい気分になってしまったのでしばらくテントで休みました。そして夕方、起きると稜線の東側にだけガスが出てブロッケンを見ることができました。西には雲海が広がり、笠ヶ岳のみが顔を出していました。そんな中沈んでいくこの日の夕陽はもちろん最高で、周りの人達みな目を奪われているようでした。

9日、4時半頃に目が覚め外を見ると、性懲りもなく大雲海が広がっておりました。すぐに服を着こめるだけ着こみ、ヘッドライトを灯し槍ヶ岳に登りました。夜明け前の山頂には誰もいなく、しばらく間、徐々に明るくなっていく360度に広がる景色は僕だけの物でした。こんな贅沢な時間を過ごしてしまうなんて、ふと、「今日、俺死ぬかも」などと思ってしまいました。その後、山頂には人が増え、みんなでご来光を迎え、影槍も見ることができました。テントに戻り朝食を済ませ、予定通り大キレットに向かいました。大キレットのために体力を残しておこうとできるだけゆっくり歩いていたつもりですが、コースタイムより早く南岳小屋に到着。そこでサングラスのおじさんに珈琲をご馳走になり、10時に出発。長谷川ピークまでは約1時間。ここで前を行くガイド付きの女性達がいたためペースダウン。僕は岩の上で座ってのんびりとした時間を過ごすことができました。先行パーティーは登りの前のコルで休憩するようでしたので、ここで追い越して北穂への登りに向かいました。慎重に丁寧に登りました。北穂小屋が見えてきた頃、後ろの方で「後少しだ」というこ声が聞こえ振り返ると、トレランの二人組がいました。「追いつかれていはいけない。」と、ここで僕のクライマー魂に火がつき、20キロ以上のザックを背負っているにも関わらず頑張ってペースをあげてしまいました。結局、北穂小屋に着いた時にはけっこうバテテしまいました。北穂小屋はとても展望が良かったです。予定ではここで1泊するつもりでしたが、まだ時間がありましたので涸沢まで下りました。その夜の涸沢の空は雲がなく、珈琲を飲みながら満天の星空を眺めることができました。

10日、8時過ぎに出発。ノンストップで上高地まで下りました。

感想　どこまでも続く抜けるような青空。月明かりに照らされた幻想的な景色。稜線からの夕焼け。大雲海が広がるなか、槍ヶ岳山頂から迎えるご来光。大キレット。穂高の峰々に抱かれながら見上げる満天の星空。僕はこれ以上、何を求めれば良いのでしょうか？

ただ、今回の山行であまりうまく寝ることができませんでした。睡眠不足は長い行程ではけっこう響いてくるので、改善していかなくていはいけないと思いました。